

今月の PICK UP

『いとしのやさしい町』 福山 聖子／著 工房森のしずく **S723.17**

大津市在住の著者が、琵琶湖を中心に大津から西湖へ右回りにぐるりと巡るスケッチの旅をしながら、旅先で見た物や聞いた事を紹介した画文集です。

ページをめくると、白黒のスケッチ画にどこかなつかしさを感じられます。そこには、古びて見えるけれど、やさしさと趣がある暮らしの中のひとコマとして滋賀の風景が描かれています。

大津市のスケッチ「川魚やさん」からは、えび豆の出汁の匂い、小分けするパックの音や夫婦の話し声が今にも聞こえてきそうです。守山市のスケッチ「花冷え」からは、桜と仁王門越しに見る人の往来と自転車やさんが描かれています。昭和の高度経済成長期の町の風景が蘇る1冊です。



『スイーツ歳時記&お菓子の記念日』 吉田 菊次郎／著 松柏社 **383.8**

クリスマスにケーキを食べることはすっかり定番となっていますが、その他にもお菓子は1年を通して様々な場面で生活に彩りを与えてくれます。本書は、そんなお菓子にまつわる行事などを外国の様子も含めて紹介しています。文化的背景を織り交ぜて書かれた文章は不思議と小気味よさを感じられるもので、楽しく読めるエッセイのような味わいとなっています。



司書の
おすすめ



『三省堂国語辞典から消えたことば辞典』 見坊 行徳・三省堂編修所／編著

三省堂 **813.17**

本書は歴代の三省堂国語辞典と、その前身である明解国語辞典から削除されたことばを集めた辞典です。消えてしまったことばの中から、特に時代性のある語や、語釈の興味深い語など、1000項目をピックアップし、当時の紙面を拡大して掲載しています。過ぎ去っていったことばを懐かしんだり、こんなことばがあったんだ、あるいは消えたんだと驚いたり。ことばの栄枯盛衰の上に、時代の移り変わりを見ることができます。



『ポリ袋で簡単、おいしいはじめてのみそ作り』 真藤 舞衣子／著 立東舎 **588.6**

みそ作りは、寒い時期に作る「寒仕込み」がベストだそうです。こちらの本ではジッパー付きポリ袋を用いての作り方を紹介しています。大豆だけでなく、ひよこ豆や小豆など様々な豆での作り方や、たった1日でできる即席みその作り方など工夫がこらされています。

毎年みそを仕込んでおられる方も、初めての方も、新たなみそ作りはいかがでしょうか。



『和歌と暮らした日本人』 浅田 徹／著 淡交社 **911.17**

「和歌」といえば、なんだか堅苦しくて難しい印象があるかもしれません。実は「和歌」は時にはラブレターとして、また時には贈り物に添えるメッセージとして、さらには仕事の愚痴を言う手段として、長く日本人の暮らしに溶け込んできました。この本は「和歌」をわかりやすく解説し、身近に感じられる歌をたくさん紹介しています。さあ、あなたも肩の力をぬいて、一句詠んでみませんか。

